

第4学年1組 図画工作科学習指導案

指導者

1. 題材名 絵から聞こえる音

2. 目標

知識・技能	○ 自分の感覚で絵を見ることを通して、音を表す形や色などの感じが分かっている。 ○ 感じた音を表す形や色の組合せを工夫している。
思考・判断・表現	○ 自分の感じた音のイメージをもとに、自分の見方や考え方を広げながら形や色で表すことを考えている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 互いの感じ方の違いやよさを味わったり楽しんだりしようとしている。

3. 学習指導計画（2時間目／全3時間）

- (1) 絵を見て感じた音について話したり聞いたりする。
(2) 感じた音を形や色で表す。(本時)
 (3) 友達と感じたことや考えたことを伝え合う。

1
1.5
0.5

4. 課題解決のための手だて

本学級は、学習の中でも特に図画工作科の時間を楽しみにしている児童が多い。また、学習中、どの教科においても、友達の見方や感じ方に心を動かしたり、それらをもとに自分の見方や感じ方を広げたり深めたりしている姿が見られる。しかし、それらを交流するよさや楽しさは感じているものの、表し方が分からなかったり、表すまでに時間を要したりして、それらを伝えながら学習することには消極的な児童が多い。

このような実態から、図画工作科の学習において、絵についての見方や感じ方を楽しみながら伝え合う鑑賞から表現へと学習を展開させることを通して、本校の主題「見通しをもって主体的に取り組み、確かな力が身に付く学習指導法」で目指す児童の姿へとつなげていくことができるのではないかと考える。また、そのために、次のような手立てをとってきたい。

【手だて1】題材との出会わせ方や、学習展開の工夫

- 第1時で、「小さな美術館」に集められた音をテーマにした作品の中から、比較的取り付きやすい5つの作品を鑑賞する。このとき、音という切り口から作品を味わうようにすることで、見方を焦点化させ、話がしやすいようにする。また、最後に、絵から感じた音を教師が形や色で表したカードを見せることで、児童が活動への見通しと、「やってみたい」「できそう」という思いをもって、次時の鑑賞と表現へと向かうことができるようにする。

【手だて2】考えを深めたり広げたりするための工夫

- 第2時の導入では、絵から感じた音についての見方が対比的になることが予想される2つの作品を取り上げることで、児童が感じたことを話しやすい雰囲気をつくるようにする。表す場面では、グループの友達の顔や、つくっているものが見えるようにしたり、つくっているものを見合う時間をとったりすることにより、友達の見方や表し方のよさに気付いたり、自分の表現に生かしたりすることができるようにする。また、既習の形や色などについての学習の足跡を教室に掲示しておいたり、扱いやすい画材を使い、画用紙を自由に使うことができるようにしておいたりすることで、様々な表し方を気軽に試しながら、自分の表し方を見つけていくことができるようにする。

【手だて3】振り返りや、学習評価の工夫

- 振り返りの際は、題材にかかる全時間を1枚のワークシートに記入できるようにしておく。また、視点を絞り、活動の段階に応じたものにしておくことで、児童も教師も活動の足跡を見取りやすくするとともに、次時の活動に生かすことができるようにする。さらに第3時では、自分や友達の見方や感じ方、表し方について、じっくり見聞きする時間を確保する中で、その楽しさやよさを感じさせ、その後の主体的に学習にかかわる態度へとつなげていきたい。

5. 本時の学習 令和3年1月27日(水)
第5校時 於：4の1教室

(板書)



- (1) **主眼** 互いの感じ方の違いやよさを味わいながら、自分が感じた音のイメージを表す活動を通して、感じた音のイメージを形や色で表す感じが分かり、自分の見方や感じ方を広げながら表すことを楽しむことができるようにする。
- (2) **準備** 教師：画用紙（正方形）、裏紙、児童用の絵、携帯型書画カメラ、テレビ
児童：クレヨン、水性のカラーペン、色鉛筆、お手拭き、ワークシート

であう	みつける・あらかず（個人思考①）	（集団思考）	（個人思考②）	あじわう（振り返り）
<p>1. 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1) 2枚の絵を見て考えを出し合う。</p> <p>○ 絵から感じた音についての見方が対比的になることが予想される2つの作品を同時に提示する。印象の違いを分かりやすくすることで、児童が感じたことを話しやすいようにする。</p> <p>○ 前時までの活動を振り返り、どうすればその絵から感じた音についての互いの見方や感じ方をより味わうことができるかについて、考えを出し合うことで、活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 絵から音を聞いたり、音のイメージが伝わるように形や色の組合せをくふうしてカードをつくりよう。</p> </div> <p>(2) 絵を見て感じた音や気付いたことについて、話したり聞いたりする。</p> <p>○ 1人1人に絵カードを準備しておく、絵の細部まで見るができるようにしておく。</p> <p>○ 1枚目の絵から順に話すようにする。</p> <p>○ 絵の中に見えるものや、絵から受ける感じなどから話すようにして、話しやすい雰囲気をつくるようにする。</p> <p>○ 絵のモチーフや場面の様子から、どんな音が聞こえてきそうか想像して話すように問いかける。</p> <p>○ 2枚目の絵を見るとときには、1枚目と比べながら話すようにすることで、それぞれの違いや面白さを味わうことができるようにする。</p>	<p>2. 絵から感じた音を形や色で表す。</p> <p>(1) 感じた音のイメージを形や色で工夫して表す。（個人）</p> <p>○ 活動に入る前に、絵の中に見えたものや受けた印象なども含めて、簡単な線や模様で表すことを確かめる。</p> <p>○ 既習の学習を振り返り、イメージを表す方法として、線、面、色、組合せ、構成などの考えられる工夫を簡単に出し合う。</p> <p>○ 向かい合って活動することで、自然にお互いの表現を見合ったり、友達と対話したりしながら、つくることができるようにする。</p> <p>○ どちらのイメージからつくり始めてもよいようにする。</p> <p>○ 画用紙は自由に使えるようにして、楽しく気軽に気持ちで試しながら自分の表し方を見つけていくことができるようにする。</p> <p>【予想される児童のつまづき】</p> <p>① 表したい感じを見付けることが難しい。 支援:「絵からどんな音が聞こえましたか。」「(絵と板書を見ながら)自分と似た見方だと思うものは。」</p> <p>② 表したい感じはもっているが、表し方を見つけることが難しい。 支援:「(既習の掲示物を参考にしながら)どんな色が似合いそうですか。」「線の感じ(数、位置など)はどうですか。」</p> <p>③ 伝わる表し方ができていない。 支援:「(絵の成り立ちを尋ねて)どんな感じを表していますか。」</p> <p>○ 児童の表し方のよさや面白さを認め、児童の思いを生かした支援につながるように声をかける。</p>	<p>(2) 友達がつくったものを見て、表し方のよさや面白さについて、話し合う。（全体）</p> <p>○ いろいろな表し方に触れることができるように、全体を見て回るようにする。</p> <p>○ どんな形や色を使っているか、どんな構成をしているかといった、表し方のよさを見付けるための視点を確かめてから見合うようにする。</p> <p>○ 全体交流の場では、感じた音のイメージが伝わるように、表す形や色の組合せを工夫している児童の作品を例に挙げ、具体的に取り上げる。このことで、次につくるときに、表したいことを見付ける手がかりにしたり、より表し方を工夫してつくったりすることができるようにする。</p> <p>○ 作品を紹介するときは、どんな表し方のことを話しているのかが、どの児童にも見やすく、伝わりやすいように、携帯型書画カメラを活用する。</p>	<p>(3) 表したい感じになるように工夫して表す。（個人）</p> <p>○ 全体交流の場でみんなで見つけた、表し方の工夫を生かしてかくようにする。</p> <p>○ カードができてきた児童には、自分の表し方を振り返り、より工夫するように声をかけたり、表し方を一緒に見付けたりすることで、よりよい表し方を見付けることができるようにする。</p> <p>◆ 感じた音のイメージを、線や模様の組合せを生かして表している。【思考・判断・表現】(作品、行動観察、発言)</p>	<p>3. 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p> <p>(1) 自分や友達の表し方のよさや、活動を通して感じたことや気付いたことを、伝え合う。</p> <p>○ 活動を通して分かったことや、活動の前で変わった見方や感じ方などを話し合うことで、自己の変容や、学びの深まりに気付くことができるようにする。</p> <p>(2) 次時の学習について話し合う。</p> <p>○ 次時は、カードを仕上げたり、絵から感じた音のイメージを表すためのくふうについて紹介し合ったりすることを確認して、次の活動への見通しをもつことができるようにする。</p>

0分 15分 25分 30分 37分 40分